



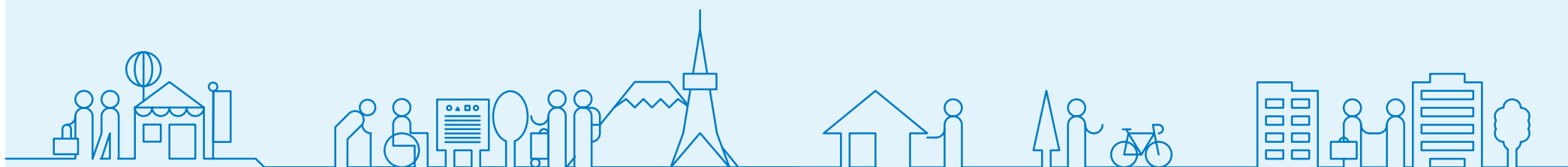
Universal

ユニバーサル

Design Guide

デザイン ガイド

株式会社インテリジェントターミナル
クリエイティブ事業部
2017.8.1



FONT

文字は可読性の高いサイズ、または視認性の高いフォントを使用します。
また、文字間の調整やフォントの組み合わせ、強弱・大小など様々な要素にも配慮していきます

推奨文字サイズ

■最小文字サイズ: 10Q (7.1pt) 以上

■行間: 文字サイズの1.5倍以上

※判型や企画内容により、やむを得ず推奨サイズより小さい文字サイズを使用することがありますが、その場合は可能な限り視認性の高いフォントの使用に留意します。

▶最小文字サイズ見本

ゴシック系 新ゴR Q数: 10Q (7.1pt) / 行間: 15Q (10.6pt)

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がいなどの能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザインのことです。

明朝系 UD黎明R Q数: 11Q (7.1pt) / 行間: 16.5Q (12pt)

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がいなどの能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザインのことです。

推奨フォント

■ユニバーサルデザイン(UD)系 / ・UD新ゴ・UD新丸ゴ・UD黎明・ヒラギノUD角ゴ/丸ゴ/明朝
・UDタイポス515・FOT-UD角ゴ_ラージ・FOT-UD丸ゴ_ラージ・FOT-UD明朝 など

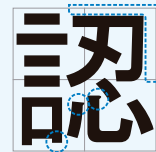
□ゴシック系 / ・新ゴ・ゴシックMB101・見出ゴMB31・太ゴB101・中ゴシックBBB など

□明朝系 / ・リュウミン・太ミンA101・見出ミンMA31 など

※WEBサイトではフォントの指定ができない場合があるので、文字サイズでの調整とします。

▶推奨フォントの比較見本

MS Pゴシック

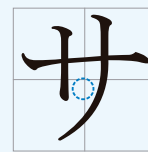


- ①飛び出た箇所がないことでスッキリ見える
- ②1角のスペースを最大限に使うことで画数の多い漢字もつぶれにくい

新ゴ

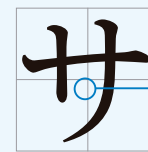


MS 明朝



- ③ふところが深くなり、より判別性が高まる

UD黎明



MSゴシック



- ④点を長くすることによってはっきり見える
- ⑤線が重なる部分も空気を多く作ることで可読性が高くなる

UD新ゴ



推奨フォント見本例

▶ゴシックMB101 R

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がいなどの能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザインのことです。

▶リュウミン M-KL

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がいなどの能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザインのことです。

▶UD新ゴ R

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がいなどの能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザインのことです。

▶ヒラギノUD明朝 W4

ユニバーサルデザインとは、文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障がいなどの能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザインのことです。

COLOR

識別可能な色・柄に配慮。
カラーシミュレーターを利用し、検証しながら制作します

配色

色弱者には「赤」や「緑」の色の見え方が異なるため背景色などの兼ね合い次第では返って目立たない場合や「オレンジ」と「緑」など配色によっては同じ色に見えてしまうものもあるので色の選定や明暗の差などに注意します。

▶色の区別がつきにくい・色自体の見え方が異なる人の見え方例



ユニバーサルデザイン推奨配色例 C,M,Y,K R,G,B

基本カラー	サブカラー	明暗基調
0,75,95,0	0,3,40,0	0,0,0,0
255,51,0	255,255,153	255,255,255
0,0,100,0	45,0,45,0	15,10,10,0
255,255,0	118,228,166	204,204,204
75,0,65,0	30,0,0,0	18,10,0,55
51,153,102	180,235,250	114,132,144
100,45,0,0	0,25,15,0	50,50,50,100
0,65,255	255,211,204	0,0,0
55,0,0,0	0,25,45,0	
102,204,255	235,190,140	
0,55,35,0	20,0,80,0	
255,153,153	203,242,102	
0,45,100,0	25,30,0,0	
255,153,0	195,180,220	
30,95,0,0		
153,0,102		
55,90,100,0		
102,51,0		

検証用カラーシミュレーターの利用

通常処理



P・D型での色認識例



重要ポイントをピンクで目立たせたはずが、埋もれてしまうことも。シミュレーターで色の検証を繰り返し、適切な色を選定していきます。

カラー以外のデザイン処理

カラーバリエーションにのみ頼った識別方法を見直し、その他のデザイン処理や敢えて重複したテキスト表示など表現方法を模索しています。

- ・ドロップシャドウや光彩効果で文字を見やすく
- ・色に頼らない文字の装飾



- ・模様をつけて面分けをわかりやすく

通常処理



P・D型での色認識例



改善後



色分けのみでは識別が困難になる場合があるため、柄や処理によって識別を補助した例。

PLAN & LAYOUT

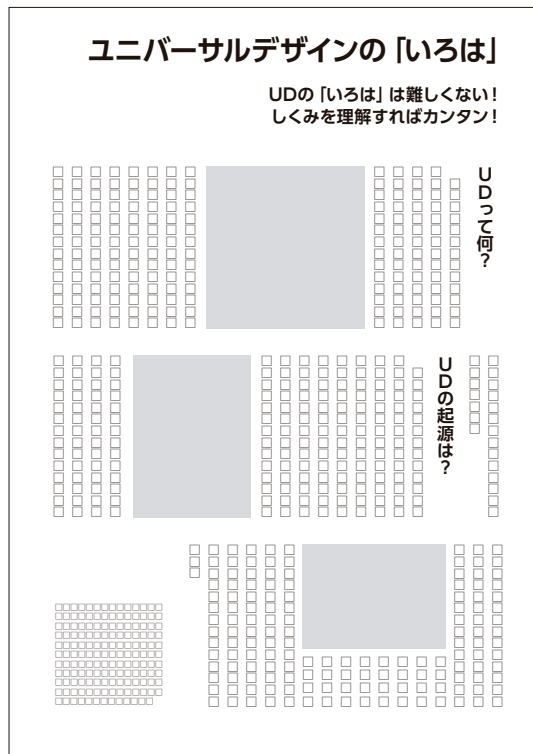
可能な限りシンプルに、かつ、わかりやすい表現で構成し、全体の流れを壊さないレイアウトを実践します

構成・レイアウト例

狭窄や弱視などの障がいのある方々は日ごろよりルーペなどの拡大鏡を使って文字を読んでいます。

その方々に配慮した内容やレイアウトを展開することにより、より多くの方々に情報をわかりやすく提供することができます。

一般的なレイアウト例

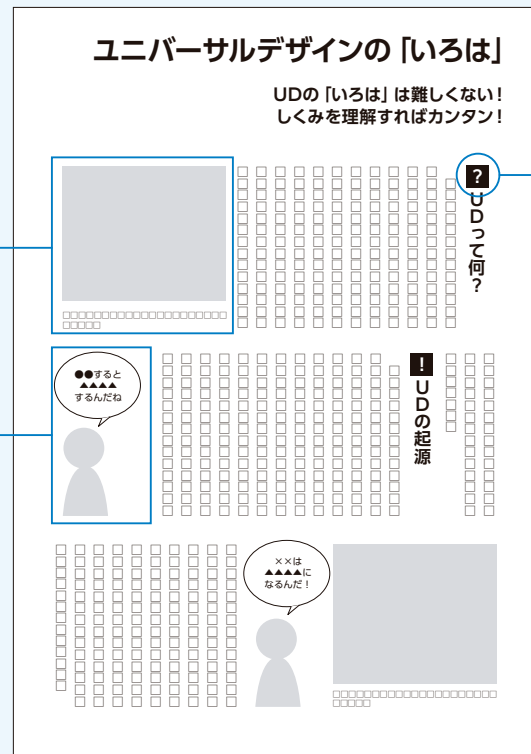


3段組みの例。

写真が本文の間に置かれることにより、テキストが回り込んでいます。

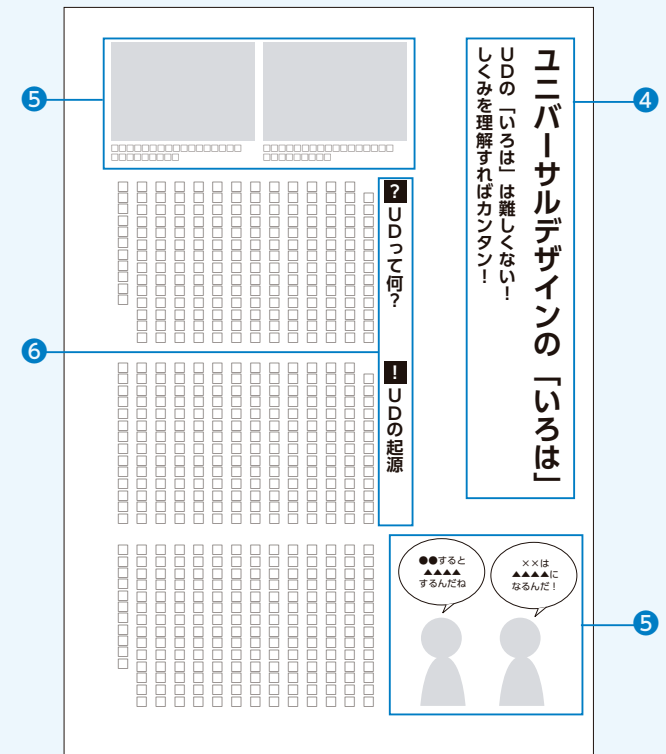
写真のキャプションは左下にまとめている。

UDを意識したレイアウトパターン1



- ① アイコンを付け、内容をわかりやすく
- ② 写真は本文への食い込みを避け、キャプションとセットで配置
- ③ イラストなどを使用し、本文の内容をわかりやすく説明

UDを意識したレイアウトパターン2



- ④ キャッチ/リードの組み方向を本文と同じに
- ⑤ 写真やイラストは本文中に配置せず、一定の場所に固めて配置
- ⑥ 見出しが同じライン上に来るように文章を調整

Universal Design (ベースの考え方: Normalization) が適用される人々

文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わずに利用することができる施設・製品・情報の設計またはデザイン。

■ 国籍・民族・言語

地球上で独立国とされているのは203カ国、民族(部族含む)は250以上、言語は方言も含め510以上現存するとされる

■ 性別

世界の男女比はほぼ 1 : 1。日本では男 : 女 = 48.7% : 51.3% と女性の割合が増えてきている

■ 年齢

日本の年少(0~14歳)人口は約1,573万人、生産年齢(15~64歳)人口は約7,631万人

65歳以上の高齢者: 約3,479万人 (平成29年)

現状では4人に1人(27.4%)が65歳以上ということになるが、21世紀半ばには3人に1人になると予測されている

バリアフリー (Accessibility) が必要とされる人々

高齢者等の社会生活弱者や障がい者が社会生活に参加する上で生活の支障となる物理的な障がいや精神的な障壁を取り除くための施策、若しくは具体的に障がいを取り除いた状態。一般的には障がい者が利用する上での障壁が取り除かれた状態として広く使われている。

身体障がい者: 393.7万人

(平成26年 障害者白書 など)

・肢体不自由: 44.2% ・内部障がい: 24.1% ・聴覚言語障がい: 8.4% ・視覚障がい: 8.2% ・不詳: 15.1%

・下肢切断
・下肢機能障害
・体幹機能障害
など

・心臓機能
・腎臓機能
・呼吸器機能
など

・1級~6級
など

・全盲(1級)
・視野狭窄(2~5級)
・弱視(2~6級)
など

身体障がい者の中の65歳以上の割合: 68.7%

身体障害者は年々増加している。日本の人口における高齢者の割合が増加していることから、今後も身体障がい者の人数は増加の予想。

色弱: 推計300万人以上
白内障 / 老視

精神障がい者: 320.1万人

「精神障がい者」とは、精神分裂病、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障がい、精神病質その他の精神疾患を有する者をいう。

知的障がい者: 74.1万人

「知的障がい者」とは、一般的には金銭管理・読み書き・計算など、日常生活や学校生活の上で頭脳を使う知的行動に支障がある者をいう。

で囲まれた人々 (日本人の約3,800万人) へのユーザビリティ向上を目指し、
健常者と高齢者・障がい者に分け隔てなく受け入れられるユニバーサルデザインを推進していきます